

じやりみち

…仮設支援情報…

第28号 発行日 1996. 10.17

阪神・淡路大震災

「仮設」支援NGO連絡会

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL: 078-578-6921 / FAX: 078-578-6923

E-mail: ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

口座番号: 01180-6-68556 (郵便振替)

決団全体会のお知らせ

次回全体会は、持ち回り制第2弾。姫路心のケアネットワークの岸岡さんが司会進行をして下さいます。18:30からです。遅れないで来て下さいね♡

10月23日(水) 18:30～ 阪神・淡路コミュニティ基金事務局の隣の会議室

阪神・淡路コミュニティ基金事務局(元町)

岸岡さんがタイムスケジュールを書いて下さいました。

- 18:30～19:00 各ボランティア団体情報交換
- 19:00～19:30 心の健康体操
- 19:30～20:00 自己表現
- 20:00～20:30 ふりかえり訓練
- 20:30～21:00 事務局からの連絡

前回全体会報告

前回の全体会は…。

1. 会員の承認
2. 『第2回 市民とNGOの「防災」国際フォーラム』について
3. 孤独死と緊急救援体制
4. ハビタット2のその後の動きについて
5. その他
6. 情報交換

1. 第2回市民とNGOの

「防災」国際フォーラム

去年の12月8.9.10日に、第1回の防災フォーラムを行い、神戸宣言というものを作り上げることができました。今回も被災者を主役とした、被災者のくらし再建のための道筋探し、そして行政への提言活動として企画をすることになりました。その企画への有志を募るとともに、「仮設」支援NGOとして参加することの承認を得ました。詳しいことは、次回からお知らせしていきます。実行委員会を開いています。一緒に考えていきませんか？

＜フォーラム実行委員会＞

10/21(月) 17:00～

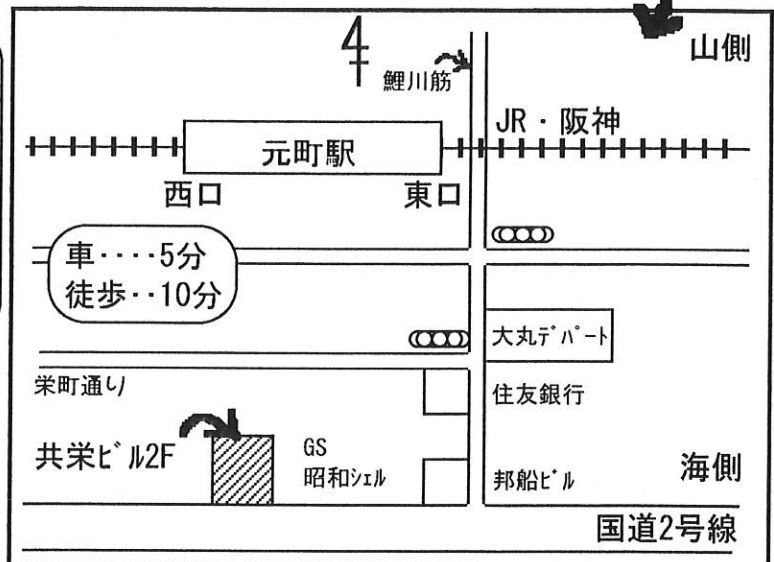
「仮設」支援NGO事務局1階

10/25(金) 18:00～20:00

サンパルビル8階(三宮)

問い合わせは:フォーラム実行委員会事務局

TEL078-578-6921 担当松村・細川



〒650神戸市中央区海岸通2-1-2 共栄ビル2F

TEL 078-333-4335 ※駐車場はありません！

2. 孤独死と緊急救援体制

100人を超える孤独死。我々ボランティアはどうか関わっていくべきなのか？日頃関わっている中で連携していけることは？各区による行政の対応の違いや、行政同士に刺激がないために動かない…その中でどう行政と一緒にやっていくのか？

1. どのように行政とネットワークを？
各区、各地域の状況を知る必要性
2. 行政の中の動きひとつひとつとの連携
実態調査、戦略の練り直し
3. 情報交換を
具体的な動きができるように

というような3点が意見として出ました。ネットワーク会議に行政の人にも参加してもらったり、各団体が各区の状態を調査し、話し合いの場を設けるなどをし、地域・ボランティア・行政の連携の強化をしていく必要があるのではないのでしょうか。これを一度テーマに全体会を持ったらどうか？という提案もありました。

3.ハビタット2とその後の動き

前号にもハビタットのことを書きましたが、「居住権」を具体的に考えていこうという考えから、「ハビタット日本NGOフォーラム」が10月7日に立ち上がりました。被災地の中での「居住権」、仮設住宅に残る人の「居住権」を我々ボランティアがきちんと理解し、取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか。全国的に動いていこうという動きで、10月23・24日には愛知県の名古屋市でシンポジウムが開かれる。

4.その他

・災害ネットワーク

全国キャラバンを行っているうちにつながった全国の支援団体。そこからの提案で「災害ネットワーク」を作っていこうという声がありました。被災地の我々ががんばってきたことをひとつの形なり、ネットワークなりにしなければ、次に災害が起こったときに何の意味もないということから、何か全国的なネットワークを作っていこうという提案でした。

今のところは愛知県、長野県から声があがっ

ています。具体的には我々ボランティアしか感じ得なかった状況や、今日までの課題の検証を行っていこうというもの。そこで、まず情報交換会を設けていこうという声がありました。

これらは事業方針にもあるため、積極的に進めていきたいと考えていますが、今回のところは保留になりました（伝え方が悪かったのかな？）。平行して来年の「防災」フォーラムにも参加していこうということになりました。

・本間さんのお話

1994年1月17日に起こったサンフランシスコの大地震で、サンフランシスコ市立精神保健部長として精神保健を行っておられた本間玲子さんが、全体会に参加してくださいました。時間が少なかったために余り話をする事が出来ず、私たちの活動についてコメントいただきました。各地区の努力、苦勞がとても感じられると言って下さり、NGOと行政のネットワークの必要性を強調して言われました。12月にはサンフランシスコの経験を元に、大阪YMCAで講演会をされるそうです。（イベント情報参照）

フォーラム

「市民活動・ボランティア活動の基盤づくり」

ー市民活動制度連絡会公開フォーラムー

10/26 (土) 13:30~16:30

会場:神戸市学習センター (中央区)

参加申込書をFAXまたはハガキで。

参加費:1,000円 (資料費込み)

問い合わせ:阪神・淡路コミュニティ基金

内 市民活動制度連絡会関西事務局

TEL 078-333-4335 FAX 078-333-4336

『第2回 市民とNGOの「防災」国際フォーラム』

ーくらし再建 道筋ここからー

1997年1/18 (土) ~19 (日)

会場:神戸国際展示場2号館 参加無料

問い合わせ:市民とNGOの「防災」国際フォーラム事務局 TEL078-578-6921

情報

コーナー

バザー

「あいたくて都市生活ーバンサイ！君に会えてよかったー」

10/26 (土) 11:00~15:00

会場:サポールホール 2F大展示室

バザー・模擬店・抽選会etc.

入場無料

問い合わせ:生活協同組合都市生活 角田(スグ)

TEL078-904-3260

ワークショップ

「災害時のストレスマネジメントとディフリーフィング」

サンフランシスコ大地震での取り組みをケースとして、災害時の心のケア、行政を巻き込んだ井総合的な対応を考える。

12/10 (火) 10:00~12:00 神戸YMCA

講師:本間 玲子博士 (元SF市公衆衛生局保険局長/神戸大学医学部客員教諭)

問い合わせ::SVA (曹洞宗国際ボランティア会) 喜多村 TEL 078-512-3703

劇

絆をつくる街ー神戸からあなたへー

1997年 1/17 (金) 開演18:30

1/18 (土) 開演14:00/18:00

(開場はいずれも開演の30分前)

会場:朝日生命ホール (新宿西口)

前売:指定席4,500円、自由席4,000円

一般4,000円、学生3,000円 (当日500円増)

問い合わせ:現代座 TEL0423-81-5165

事務局より

だんだんじやりみちも情報量が多くなってきました。「これからはぼちぼち枚数を増やしていかなあかんのやろか?」と考えています。このことに対してのご意見・ご感想頂けると非常に参考になります。また、FAX送信しているところも、郵送に切り替えていこうと踏ん張っていますが、実は2人で編集・発送の手続きをしまして、ひっじょーに山となったお仕事を抱えながらの作業、なにとぞ失礼、手違いあるかもしれません。お許し下さいませ。じやりが2通行したら知らせてね。

またまた、それに伴い、そしてつながりを広げるためにも、全国での震災関連のイベントを募集しています。ございましたら事務局までお知らせ下さい。

< 仮設は今.. >

西区編

我々のホームグラウンド、西区包丁池仮設住宅(110戸)。現在は80~90世帯程が暮らしている。ここは“仲がよい”という言葉で形容されることがとても多い仮設住宅のような気がするのには私だけだろうか？知人いわく、ここは「自治会と住民の方との仲が、他に例がないくらい仲がよい」仮設住宅なのだそう。そして、同じ西区にある伊川谷第一、池上中央公園の2つの仮設住宅との交流があり、やっぱりとても仲良し！一つの仮設住宅で「お茶会開くよ」ってことになる、他の2つの仮設住宅からもドツと(?)人が来るということから見て、この3つの仮設住宅の仲の良さはわかるのではないかと思います。

さて、私たちは、8、9月の学校がお休みの間、毎週日曜日に“ふれあい喫茶”を包丁池仮設住宅のふれあいセンターで開いてきました。最初の頃は、「コーヒーが濃い、薄い、パンが薄い…」などとドヤバタがあつたり、宣伝量が少なかったのか、人の出入りはポツポツという感じでした。でも、しばらくすると、コーヒーの味も安定したり、住民の方同士の口コミがあつたりで、“注文に答えるのに目一杯”“私たち学生のいるスペースがな

い(涙)”と言ったほどに来ていただけるようになりました。時には敬老の日のお祝いや寄席のようなイベントもあり、仮設住宅の住民の方よりも、学生ボランティアの方が楽しんでいるのじゃないのか？と錯覚するくらい盛り上がることもしばしば…(反省)。でも、仮設住宅の方が帰られるときに、「楽しかったよ、また来週も来てね。」と言う言葉をかけていただいたときのうれしさといったらもう言葉もでないですよ？(うめぼれているかもしれませんね)。

さすがに10月以降は学校があるので、月に1回、日曜日にしようと言うことになりましたが、これからもずっと続けていくと思います。

仮設住宅に入居されてから、1年半以上たち、ある人はマンションへ、またある人は公営住宅へと移って行かれる方もだんだんと増えてきました。そうなるというくらい仲が良いといっても、ゆがみが少なからず生じてくると思うのです。別れたくないのに別れなきゃいけない、移りたいのに残らなきゃいけない。そういう矛盾に対して私たちの力はとても小さなものだと思います。でも、ボランティアだけでなく住民の方々もまきこんで、“ベスト”とは言わずとも、“ベター”な方向へ動いていくことができれば、と考えている今日この頃です。

文責：神戸学院大学ボランティアK. G. U. “U・M”

また、新たな孤独死。つい先日ショッキングな死があったばかり。私たちはいったい何ができるのでしょうか…？

「なぜ、ここにいるのだろう…」

そんなつぶやきを残して3月、67歳の独り暮らしの男性が自ら命を絶った。阪神大震災で兵庫県芦屋市のアパートが半壊、被災地から遠く離れた大阪府南部の仮設住宅で、昨年の95年6月から暮らしていた。10月17日で震災から1年9ヶ月。兵庫県警などによると、9月末までに仮設住宅で起きた孤独死は104人、うち自殺者はこの男性を含めて6人という。

男性は2Kの6畳の間で、インコやカナリアなど約20羽の小鳥を放し飼いしていた。その事理達を3月の始めごろ鳥かごに入れ、部屋の隅に置いた。もともと口数の少ない男性が、仮設住宅の周りをきれいに掃除しているのを見て、近所の人から声をかけた。「何故ここにいるのだろう」「何故こんな生活を続けないといけないのかな」。そんなつぶやきがもれてきた。

姿が見えなくなって数日後の3月19日、近くの人からの通報で警察官が部屋に入ったところ、台所そばの風呂場で首をつっていた。死後約2日。遺書はない。

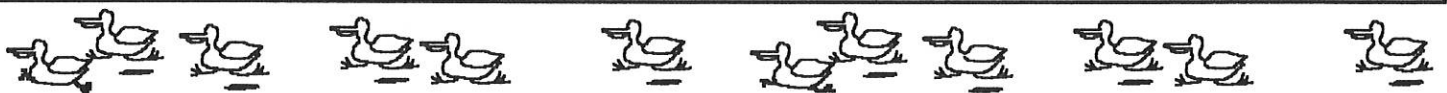
翌日、仮設住宅内のふれあいセンターで葬儀が営まれた。小鳥たちは保育園に引き取られていった。

「地震で生き延びてよかった、良かったと言っていた。どうしてこんな死に方をしなければならなかったのか」。葬儀に出た親族はそう言って悔やんだ。

空き家が目立つ仮設住宅で起きたこの自殺は、「これ以上悲しい出来事が続かないように」と伏せられてきた。しかし、最後のつぶやきを聞いた入居者は「忘れようにも忘れられない」と話す。

男性が住んでいた芦屋のアパートは補修され、部屋は今も空き家のままだ。

10/17 朝日新聞ニュース速報より



未使用

てれふおんカード、く・だ・さ・い♡

10月現在161枚!! ありがとうございます。引き続きお願いいたします。

孤独死を防ぐ

前回の全体会では、先日の死後10ヶ月の孤独死について話し合われました。その中で出てきた3つの団体さんの孤独死についての対応、課題を紹介したいと思います。

黒田さん

(阪神高齢者・障害者支援ネットワーク)

孤独死は「孤独な生」でもある。

仮設住宅だけでなく、恒久住宅でも同じことが起こり得る。行政やボランティアなどが手をとって、きめ細かな目配り、気配り、声掛けをして孤独死をなくしたい。一人でいる人にどう対応していくかが孤独死を防ぐ。

私たちの団体は、見方、とらえ方の指導をしている。

「立ち止まる姿勢、気配り、目配り」。

そしてネットワーク作りの大切さ。

「行政との、地域との…」

予防例：「訪問をするときどこに目配り、気配りを？」

- ・「食べている？」「飲み物は？」と言う問いかけと同時に体の状況を見て、そこからのキャッチをする。
- ・生活環境の確認（ゴミ箱、洗面所、キッチン…。）
- ・畳の隅々、食器棚の中をさっと見る。
- ・行ったときに様子がおかしい場合は、1日に2、3回はのぞく。
- ・内カギか？外カギか？
- ・裏カギをかけないでもらったり、カーテンを少しだけ開けておいてもらう（中の様子が見えやすい程度）。
- ・郵便物のたまり具合（何日から？）
- ・電気、ガスのメーターのチェック表を作成する。
- ・ふれあい推進委員、民生、近所の方などに、その人の行動を見ていてもらう。
- ・おかしいと思ったらすぐに行政に。

その他、ふれあい推進委員、婦人会、保健所、生活アドバイザー、ケースワーカー、警察、福祉事務所、ボランティアなどと一緒にミーティングをし、連携をしていくとともに、情報交換からノウハウを学んでいく必要がある。

また、専門・一般向けのチェックマニュアルを作り、誰でもできる活動にしていく必要がある。見方、とらえ方のコーディネーター、マネジメントを専門家がやれば、素人でも十分できるし、活動の中身がもっと濃くなる。指導さえあれば…。またそれをいろんな団体さんに、10分でも20分でも提供できる場が欲しい。

殿本さん

(わかちあい 阪神)

「どう行政と一緒にやっていくか？」

我々ボランティアだけでも、地域だけでも、また行政だけでも、もうカバーしきれないところにあるのは確か。いかにネットワークをつくっていくかが大切。東灘区では、月1回「東灘ネットワーク会議」（主催：社会福祉協議会）を開いている。医療関係・ソーシャルワーカー・5カ所の病院が参加。他にも医師会・民生委員・ボランティアグループ（10団体ほど）・老人福祉センター・市の各機関・消防署など、いろんな参加がある。ここでは、東灘区（仮設住宅を含む）の課題が講演会を含めて話し合われる。

こういった、行政も私たち市民のテーブルに一緒に出てもらう会議を開くことで、ネットワークを強化している。

しかし各区、各地域ごとに行政などの動きが違うのも事実。私たちボランティアも、それぞれの状況を把握しきれていない。各地域の状況を調査し、課題を見つけたし、そして連携を強化していかなければならない。

マクロとミクロがですね…



岸岡さん

(姫路こころのケアネットワーク)

「信頼づくりの大切さ」

わたしたちは仮設住宅の配置図をつくり、黒田さんと同じように、いろいろなチェックをしている。個別訪問を主体にしており、イベントを行うにしても、それを念頭において活動している。例えば、炊き出しをし、お皿をとりに来たかどうかで、仮設住宅から出てこない人のチェックをし、そこから個別訪問を行ったり。

出てこない人への対応は、とにかく「通う」ことが大切。行政とも、うまくメリットを探して連携すればいい。しかし、どこまでボランティアが求めるのか？という問題や、プライバシーという問題もあるため、慎重に行っていかなければならない。

そういった問題や、情報が入りにくいことといったような課題の解決には、やはり信頼関係が大切である。常に通い、そして信頼をつくることが、孤独死を防ぐ第一歩ではないだろうか。

ごめん
なさいね



冬を迎えるにあたっての一口メモ。

塩水でうがいをする、風邪防止にもなり、またタンガでやすくなります！

ふきちゃんのキャラバン日記

3回目の1月17日をどう迎えようかな? その1

あと約3ヶ月で、3度目の1月17日がやって来ます。約6千人の人たちの3回忌にあたるこの日、「1997年1月17日は私は、私たちは、被災地の人々は、そしてまた全国の人々は、どんな風に迎えるのだろう?」と、私はふつと思いました。

この問いが生まれたきっかけは、この日に行われる予定のイベント『市民とNGOの「防災」国際フォーラム』に関わってみようかと決めたことからです。

去年は、友人・知人の命日を静かに過ごしたい一心で、「追悼イベントをしよう!」などの声かけに対して、消極的な協力しかできませんでした。でも、今年は「日々の積み重ねがそのまま大きな力になるようなそんな場やチャンスが作れるのであれば、やってみよう」という気持ちになっています。去年のように、17日前後にはマスコミも被災地の現状その他を報道するはず。その時だけ(?) 注目され、被災地の情報などが一時的に全国に発信されることも予測されます。

「に関わりたいな」…。防災フォーラムの話を聞いた時、すぐさま浮かんだ私自身の考えです。そして同時に「うん? 待てよ」と頭に浮かんだのが先程の問い。「被災地から全国まで、さまざまな人にとって、この1月17日をどんな風に迎えるのだろう?」という問いです。

東京都では「大震災に負けるな!」というタイトルの、なんと1億円以上の予算をつぎ込んだ一大イベントが予定されているとか。ところが、残念なことに都が企画するこのイベントの趣旨の中に「被災地の声を取り入れよう。現状を確認してみよう」という案はないようです。

「ひょっとして、もう1月17日は、震災メモリアルデーのようになってしまっているのでしょうか?」。「神戸の教訓を忘れず、震災から学んで生きていこう」という姿勢が、過去の遺物とつきあうかのような姿勢であるならば、とても残念です。私にはどうしてもまだ震災が過去の出来事と思えません。(私の見方は偏っているのでしょうか?) もし、震災から学ぶのであれば、現在進行形であるし、それでなくても、復興への取り組みはまだまだ発展途上という

「どうせ注目されるのであれば、私たちの生の声にあふれ、これからのくらしに対する夢や希望が生まれる内容の情報が出て欲しいな。あるいはこれまでご支援下さった方や、今なお震災後の神戸の復興について関心を持って下さっている全国あちこちの人々への、良質な情報提供であって欲しいな。もちろん、失われた大事な生命に対する追悼の気持ちも忘れたくない…。そういつた情報が生まれてくるには、たぶん準備が必要。しかけが必要。黙って待っていてもあかんのとちやうかなあ?」

実は、去年のこの時期、私の事務所へもいくつか取材依頼のお電話がありましたが、誰が何のために行く取材なのか、わからなくなることもありました。「〇〇のシーンをとりたいのです。誰か紹介して下さい」とおっしゃる内容を、まるでやらせではないかと感じてしまうことがあったほどです。そんなこともあって、「黙って見ていた昨年とはちがう関わりを今年はしてみようか。それまでできるだけ被災地で暮らす人々の日常が、そのまま持ち込まれる企画

の現状のように感じています。「震災を終わったもの」として震災を考えるのはイヤだな」という声に対して、「神戸! 神戸! って被災地の人たちは甘えている」という声も耳にします。

さて、今「仮設」支援NGOに所属するボランティアグループなど、いくつかのグループが仮設住宅で活動を継続しています。以前からわたしは「それらの活動などが無理なくそのままゆるやかにネットワークしてしまっているような、そんなイベントがあったら、有益な情報交換の場になるんじゃないかな?」と思っていました。ですが、ただでさえボランティア不足の被災地。新たに大きな企画を準備するエネルギーを残していないのも事実。地道な活動を積み重ねている人や団体が多いように見受けられます。だからこそ、それらの人々の継続のためにも、今だからこそできる「ゆるやかな連帯の場」が必要な気がしてなりません。

また、全国キャラバンの事務局としてこの頃のキャラバン主催者の方々などから伝わってくる思いなどを総括してみると…

「震災や被災地支援に対する関心はどんどん希薄になっている。継続して来た人たちも被災地同様疲れている。けれど、絶望的ではないようだ。一方で、被災地を見直し、そして同時に自分たちの地域も見直していきたいという気運が、微かながら高まってきている」。という感じに思えます。すでに「阪神の経験を、本当の意味でも活かしていけるように民間の防災ネットワークの輪を広げてはどうか?」という打診も頂いています。

…話があちこちに飛びましたが、ひとまず私の場合は、来年の1月17日を、『1・17防災フォーラム』で過ごしてみようと思います。

このキャラバン日記についても、各地の主催者やその他の方たちへのご迷惑にならない範囲で、この3度目の1月17日というフィルターを通して、編集を続けていきたいと考えています。というのは、もう全国あちこちからの参加や、連動する各地でのイベントが予定されはじめていると聞いたからです。とはいえ、『1・17防災フォーラム』への取り組みはまだまだこれから。大勢のみなさんの、日常からのアクセスを期待して止まない私です。

いかがでしょうか? 「あなたは、どんな風に1月17日を迎えたいですか? 被災地からの情報として、どんな情報が流れることを望みますか?」より多くの声が集まることを願っています。(参考までに、フォーラムの資料を掲載して頂くようお願い致しました。どうぞ、ご覧になってみて下さい)

プロジェクト結ぶ 石井布紀子



……仮設支援情報……

ガレキは走る

(全国キャラバン日程表)



10/20	埼玉県	浦和市大里グランド内	ボランティアフェスティバル	10:00～	ガレキパル
10/23	愛知県	豊橋市	豊橋中学校	講演会	(石井)
10/26～27	神奈川県		神奈川大学学園祭	パル	
10/26～27	愛知県			パル	
11/1～4	京都府		佛教大学学園祭	パル・販売	
11/2	静岡県		日本大学三島キャンパス	パル	
11/2	東京都		青山学院大学学園祭	情報交換会	(石井)
11/3	埼玉県	新松戸		フリーマーケット・アール	(村井)
11/4	東京都		淑徳短期大学学園祭	パル	
11/11～14	東京都	豊島区	立教大学学園祭	ガレキパル	(14日対談・村井)
11/17	京都府		ゆめっと京都会場	ガレキパル・販売	

会場、時間など詳しいことに関しては「プロジェクト結ぶ」の石井 布紀子さんまで。
プロジェクト結ぶ：0798-64-5829 (FAX 0798-65-5254)

1996年9月22～23日、関東・東北地方の各地で大きな被害を出した台風17号。このたび、災害救助法が適用されたのは、埼玉県与野市・千葉県茂原市・千葉県長生郡睦沢町の2市1町。その中でも人口比率で被害の大きかった茂原市と睦沢町では義援金を募集しています。

<被災者への救援対策（貯金関係）>

台風17号の被災者に対する救援活動を支援するために、郵便振替による災害義援金の送金サービスを次のとおり実施します。なお、災害義援金の送金サービスの料金は無料です。

義援金は、救援団体を通じて、被災者の救援に役立てられます。

1 救援団体の振替口座番号

茂原市災害対策本部 00100-2-41300

睦沢町災害対策本部 00150-0-87650

2 取扱期間

1996年9月25日（水）から同年10月24日（木）まで

3 取扱郵便局

全国の郵便局（簡易郵便局を含む。）

連絡先：郵務局集配業務課 TEL 3 5 0 4 - 4 3 6 7
貯金局業務課 TEL 3 5 0 4 - 4 4 5 4

以上は貯金局業務課様に確認をした上で転載しました。みなさんからのあたたかいご協力をお願いします。（事務局：小島）

<被災者への救援対策（郵便関係）>

台風17号による災害の被災者の救助等を行う団体にあてた救助用・見舞用の現金を内容とした郵便物の料金の免除を次のとおり行います。

1 引受期間

1996年9月25日（水）から同年10月24日（木）まで

2 救助用郵便物の料金免除の取扱い

(1) 引受郵便局：すべての郵便局（簡易郵便局を含む。）

(2) 送付先

〒297 千葉県茂原市道表1番地

茂原市役所内 災害対策本部

〒299-44 千葉県長生郡睦沢町下之郷1669番地

睦沢町災害対策本部

(3) 郵便物の引受条件

ア 内容品及び取扱い：被災者救助用寄附金・見舞金で現金書留としたものとし、書留以外の特殊取扱としないものであること。

イ 表示：表面の見やすいところに「救助用」と記載すること。

ウ その他の条件

(ア) 無償で被災者に寄贈する旨申し出たものであること。

(イ) 当該救助用・見舞用現金の配分方について、条件を付けないものであること。

(ウ) 個人差出しのものであること。

3 その他

(1) 小包郵便物については、受入先の要望により料金免除の対象から除いています。

(2) 料金免除となる救助用郵便物につきましては、当該郵便物の引受期間中は時間外郵便窓口においても引受けを実施。なお、郵便局により時間外郵便窓口の取扱時間が異なっておりますので、最寄りの郵便局にご確認下さい。